

【 地域学校協働活動事業 】

○教育振興基本計画における位置付け

基本目標：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上を図る

基本的施策：地域社会における教育力の向上

具体的施策：地域学校協働活動の推進

1. 背景

現代の教育の現状は、学校でのいじめや不登校、青少年による凶悪な犯罪、児童虐待など様々な問題が発生しており、その背景には少子化や核家族化、情報化等の社会変化や人間関係、地域における地縁的なつながりの希薄化などによる「地域の教育力」の低下が指摘されている。

2. 目的

学校、地域（高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業・団体・機関等の幅広い地域住民）、家庭が連携して、従来の自治会のような地縁団体だけでなく、新しいつながりによる「地域の教育力」の向上により、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていくことを目指している。

また、地域の大人が多く関わることで、児童・生徒の多様な体験・経験機会の増加、規範意識やコミュニケーション能力の向上などの効果が期待され、教員がより教育活動に力を注ぐことができるようになり、学校教育の充実を図るとともに、地域住民が自らの知識や経験をいかす場が広がり、生涯学習社会の実現も図ることができる。

・平成27年12月

中央教育審議会答申

地域全体で子どもたちの成長を支える「地域学校協働活動」を推進。

「地域学校協働本部」を全国的に整備することを提言。

・平成29年3月

社会教育法改正

教育委員会が地域住民等や学校との連携協力体制を整備。

「地域学校協働活動推進」の委嘱に関する規定も整備。

3. 概要

◆荒尾市地域学校協働本部の設置

平成28年度までは補助事業対象である海陽中校区のみだったが、平成29年度からは、市単独事業として三中校区、四中校区でも拡充して取り組み、活動推進員（コーディネーター）も2名から6名へ増員。

・実行委員会の開催（荒尾市学校支援実行委員会）

地域学校協働本部事業の企画・実施

- ・活動推進員（コーディネーター）各中学校区に2名ずつ計6名の配置
学校の依頼に応じて、支援活動にあたるボランティアと学校間の調整を行う。
- ・広報活動（チラシ・ポスターなどによる啓発活動）
- ・活動推進員（コーディネーター）、学校支援ボランティアの養成（研修会参加）
- ◆学校の依頼に応じた支援活動例
 - ・学習支援（習字、水泳、陸上、プリント丸付け、家庭科ミシン、調理など）
 - ・行事支援（読み聞かせ、引き渡し訓練、食育など）
 - ・環境整備支援（学校図書整理・ブックカバー貼りなど）
 - ・安全活動支援（校外学習の引率、下校見守りなど）
- ◆地域への貢献による活動例
 - ・夏休み英会話教室（小学低学年の親子対象）の中学生によるスタッフ協力（中学校3校より14名）
 - ・地域の清掃活動（八幡小放課後子ども教室児童16名）10/11予定

4. 事業費・予算

- ◆学校支援活動支援事業費・・・海陽中学校分（県補助対象）
予算額：1,160千円（国県補助減額のため935千円が経費見込）
H29実績/支援活動374回、ボランティア延べ人数：1282人
経費992,945円（推進員謝金、ボランティア保険料など）
- ◆学校支援活動支援事業費（拡充分）・・・第三・第四中学校（県補助対象外）
予算額：2,225千円
H29実績/支援活動200回、ボランティア延べ人数：787人
経費645,517円（推進員謝金、ボランティア保険料など）
※以前は海陽中学校区のみで取り組んでいたが、平成29年9月から市内全校区へ拡充したもの。

5. 今後の展望・主な課題

今後の展望については、現在は地域からの学校支援での活動がほとんどであり、子どもたちによる地域貢献の活動や中央公民館などと連携した活動を積極的に取り組んでいきたいと考えている。

課題においては、経費面におけるものが多く、平成20年度より各種事業に取り組んでおり、年々広がりを見せる中、平成29年度からは県補助対象外地域まで拡充して市単独で取り組んでいる。

また、平成30年度においては、県補助金が大幅減額となったが事業効果を継続するため不足する事業費は市で負担し取り組んでいる。

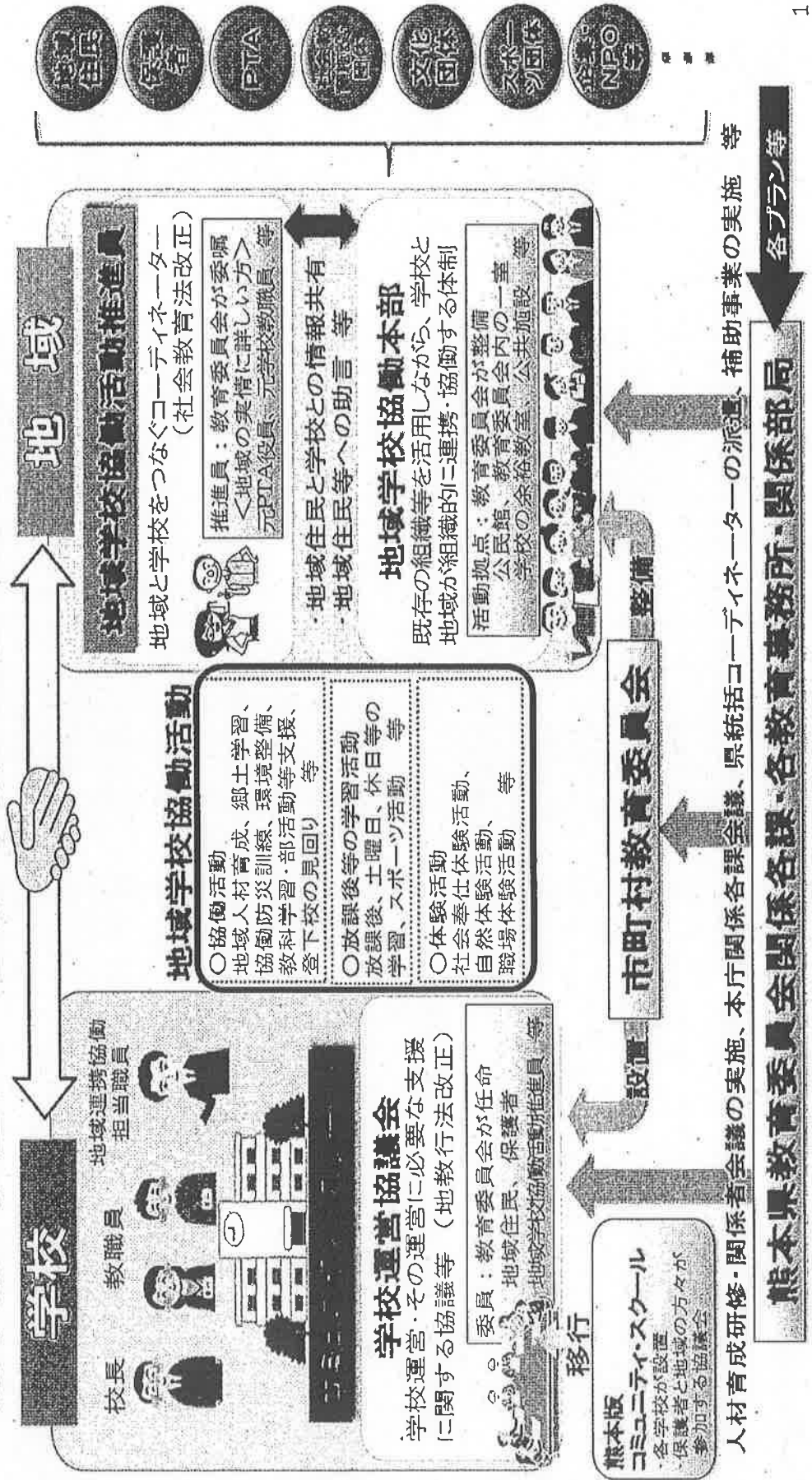
このように、国・県が積極的に推進しており、今後事業が拡大してくることが想定されるにも関わらず、補助金は減額傾向にある。（県に対して十分な財源措置を要望している）

また、今後事業の拡大に伴い、市全体の統括コーディネーターの設置について検討が必要。

地域学校協働活動

熊本県教育委員会 平成30年8月作成
熊本県が推進する「地域と学校の連携・協働」の姿

のすすめ



【第 75 回熊本県民体育祭 玉名・荒尾大会事業】

○教育振興基本計画における位置付け

基本目標：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

基本的施策：生涯スポーツの推進

具体的施策：競技スポーツの推進

1. 背景

荒尾市では平成 22 年に第 65 回熊本県民体育祭荒尾大会が開催されたが、施設面・人員確保・経費負担の面から、次回の単独開催は困難と判断し、玉名市・玉名郡との共同開催を希望する旨の申し出を行い、平成 25 年 3 月に熊本県体育協会より承認を得た。

平成 29 年 10 月より玉名市・玉名郡と次回大会開催に向け協議を行い、12 月に熊本県体育協会へ第 75 回熊本県民体育祭玉名荒尾大会開催同意書及び計画書を提出した。

2. 目的

熊本県民体育祭は広く県民の間にスポーツを普及し、県民の健康増進とスポーツ精神の高揚を図り、明るく豊かな県民生活の進展に寄与しようとする目的で開催されている。

県内最大のスポーツ大会に市民を派遣することにより、大会を通じて競技力の向上、大会に向けた強化練習により優秀選手の強化・育成を図る。

3. 概要（案）

大会名：第 75 回熊本県民体育祭玉名荒尾大会

開催日時：平成 32 年 9 月 19 日（土）～9 月 20 日（日）

主催：熊本県教育委員会、熊本県体育協会、玉名市、荒尾市、長洲町、南関町、和水町、玉東町

主管：第 75 回熊本県民体育祭玉名荒尾大会実行委員会・関係競技団体

総合開会式会場：玉名市総合体育館

競技会場：玉名市、荒尾市、玉名郡

【荒尾市で開催予定の競技】

陸上競技（陸上競技場）、水泳（市民プール）

軟式野球（野球場・有明高校グラウンド）、

ソフトボール女子（多目的広場・ソフト球場）

バスケットボール男子（市民体育館・海陽中学校体育館）

弓道（弓道場・アーチェリー弓道遠的場）

4. 事業費・予算（案）

- ・平成 31 年度実行委員会市町村負担金（案）：約 200 万円（協議中）
- ・平成 32 年度実行委員会市町村負担金（案）：約 1,000 万円（協議中）

※競技会場となる施設や設備については、熊本県体育協会が定める施設基準を尊重し、競技団体や関係機関と十分協議し整備を実施する。会場所管の各市町村で行うこととなる。

5. 今後の展望・主な課題

第 75 回大会の競技会場となる施設は主に荒尾運動公園内の施設だが、運動公園の施設は供用開始から 30 年以上経過しており、設備機器などの耐用年数が既に経過しているものも数多く、現在の競技施設基準を満たしていない施設も多い。

平成 22 年大会以降、施設の改修・整備等を実施していないため、大会開催に向け、今後施設改修が必要となる可能性がある。

【 孫文記念館交流事業 】

○教育振興基本計画における位置付け

基本目標 : ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる。

基本的施策 : 文化財の保護と活用

具体的施策 : 文化交流の推進

1. 背景

辛亥革命 100 周年の年である平成 23 年に晩晴園主催の史料展に史料提供の協力をしたことから、平成 24 年にシンガポールで開催される「孫中山・宋慶齡紀念地連席会議」に初めて招待された。

連席会議に参加するようになり資料館と国内外の孫文関連施設との交流が活発になっている。平成 25 年度には上海の孫中山紀念館と企画展を共催し、さらに、平成 26 年度はシンガポール孫中山南洋紀念館晩晴園と学术交流を主軸とした提携を約する調印式を行った。また、平成 27 年度は両館提携についての基本協定書に基づいた交流として、史料のレプリカ交換式を行い、さらに、協定期間最後の年である平成 31 年には「共同研究報告書」を発刊する予定。平成 28 年度は孫文生誕 150 周年として生誕地・中山市にて、そして平成 29 年度は孫文の孫である孫国雄氏が主催でロサンゼルスにて「孫中山・宋慶齡紀念地連席会議」が開催され参加している。

2. 目的

世界各地にある孫文記念館との交流を図り、宮崎兄弟に関する学術研究に寄与すること及び文化面にとどまらない交流につなげることを目的とする。

3. 概要

世界各地にある孫文記念館と宮崎兄弟生家との交流促進を図る。本年度は、「孫中山宋慶齡紀念地連席会議」が初めて日本で開催され、主催は神戸市孫文記念館であることから参加する予定。また、シンガポール孫中山南洋紀念館晩晴園と宮崎兄弟資料館との間で、学术交流を主軸とした提携に基づき、協定期間内に共同報告書を発刊する。

4. 事業費・予算

平成 29 年度	予算額	1,309 千円	決算額	559,100 円
平成 30 年度	予算額	924 千円		

5. 今後の展望・主な課題

【評価・課題】

平成 29 年度は「共同報告書」内容執筆を計画的に進め、晩晴園にデータを送付することができた。また、孫文の子孫が初主催した「孫中山宋慶齡紀念地連席会議」に参加し、宮崎兄弟に関する報告を行ったことで、孫文関連施設として宮崎兄弟資料館の存在を世界の孫文記念館に対しアピールすることができた。

晩晴園との両館提携の協定期間は平成 31 年 9 月 24 日までであるが、その後をどうするか半年前までに意向を検討する。

【今後の展望】

引き続き、シンガポール孫中山南洋紀念館晩晴園との交流事業の目的である「共同報告書」発刊に向けて、計画的に作業を進め、平成 31 年度には発刊記念イベントを開催する。記念イベントにはシンガポールからも参加予定。

6. その他

○宮崎兄弟の生家施設関連交流件数 平成 29 年度 18 件
生家に訪問された外国（中国語圏等）客と連席会議出席の合計件数

孫文記念館交流事業

—シンガポール孫中山南洋記念館・晩晴園との交流について—

1. 経緯

【平成 26 年度】

平成 26 年 9 月、「シンガポール晩晴園—孫中山南洋記念館および日本荒尾市宮崎兄弟資料館 両館提携についての基本協定書」を締結（於：晩晴園）。
…丸山教育長（ほか 4 名）が出席。相互に所蔵史資料の目録を交換。

【平成 27 年度】

平成 28 年 1 月、レプリカ交換式（於：晩晴園）
…それぞれが所蔵する史料のレプリカを交換（宮崎兄弟資料館→晩晴園 『三十三年之夢』初版本、晩晴園→宮崎兄弟資料館 『三十三年之夢』中国語版）、山下市長（ほか 5 名）が晩晴園を訪問。

【平成 28 年度】

平成 29 年 2 月、共同報告書発刊に係る協議のため、晩晴園を訪問。

【平成 29 年度】

平成 29 年 12 月、共同報告書・晩晴園担当分原稿データが荒尾市に到着。
平成 30 年 2 月、共同報告書・荒尾市担当分原稿データを晩晴園に送付。
平成 30 年 3 月 27 日、晩晴園館長（ほか 2 名）が荒尾市を訪問。
…共同報告書発刊・発刊記念イベント・今後の交流について協議。

【平成 30 年度】

平成 30 年 4～8 月 荒尾市担当分原稿内容の加筆修正作業
9～10 月 荒尾市担当分原稿内容の監修作業（監修者：猪飼隆明氏）

2. 今後のスケジュール

～平成 30 年 12 月 共同報告書発刊記念イベント企画・晩晴園との調整
※11/28～29 の連席会議（神戸）にて晩晴園と協議予定。

平成 31 年 1 月 最終原稿を互いに送付、確認
4 月 印刷業者選定・契約 → 編集・校正作業（～7 月）
7 月末 共同報告書製本・納品
9 月 共同報告書発刊記念イベント（記念式典等）開催